



ぎふ地域創発人材育成プログラム
～地域活性化を目指した知的基盤の確立～

地域ラボ 活動紹介

岐阜大学 社会システム経営学環
地域ラボ



中畑 久美子

岐阜大学社会システム経営学環
地域ラボ・高山 特任准教授

●専門分野 経営学

●プロフィール

- ・岐阜県高山市出身
- ・地方銀行グループにて11年
- ・現在は中小企業診断士として活動



I. 「地域ラボ」 紹介

II. 地域ラボ・高山 活動紹介

III. 地域ラボ・中津川 活動紹介



I. 「地域ラボ」 紹介

ぎふ地域創発人材育成プログラム



SPARC-GIFU
ぎふ地域創発人材育成プログラム



地域ラボ
LOCAL LAB.

目的

これまでの成果を生かし、分野横断的な知見と視野を備え、地域社会での実践と協働を通じて

地域社会の課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業、地域社会での共生ができる人材育成に取り組む

ぎふ地域連携プラットフォーム

地域が求める人材育成への貢献を目指す

- ◆ 地域が求める人材像の同定
- ◆ 大学への人材養成の要請
- ◆ 対応の評価及び改善要請

産

岐阜県中小企業家同友会
岐阜県経営者協会
長良川温泉若女将会
柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社
Global Mobility Service株式会社

官

岐阜県 高山市
岐阜市 中津川市

学

岐阜大学
中部学院大学
岐阜市立女子短期大学

金

十六銀行

教育プログラム
検討委員会

ニーズに応じた
教育の要請

地域課題解決
に資する教育

評価

東海地域大学等連携推進法人

SPARC関係機関

大学連携により地域活性化に貢献する知的基盤の確立を目指す

中部学院大学

人間福祉学部・
スポーツ健康科学部

地域共生学P

岐阜市立
女子短期大学

英語英文学科・国際文化学科・
食物栄養学科・生活デザイン学科

データサイエンス・地域課題解決P

岐阜市

岐阜市立
岐阜薬科大学

アントレプレナーシップ科目
地域課題解決PBL科目

数理・データサイエンス科目
その他教養科目

アカデミック・セントラル
地域高等教育基盤センター

教育コーディネーターによる連携
開設科目の企画・調整、教材開発
東海国立大学機構が有する教育
基盤・教育コンテンツの提供

創発×地域実装P

社会システム経営学環

岐阜大学

東海国立大学機構

名古屋大学

リカレント
教育事業

高大接続
事業

課題解決型教育
による貢献

学んだ内容を
地域社会で実践
往還型教育
の充実

実践を理論的に
考察・検討

実践的フィールド拠点

地域ラボ の設置運営

- ◆ 現地での実習等拠点として機能
- ◆ 各地域ラボに実習等の
コーディネート教員を配置

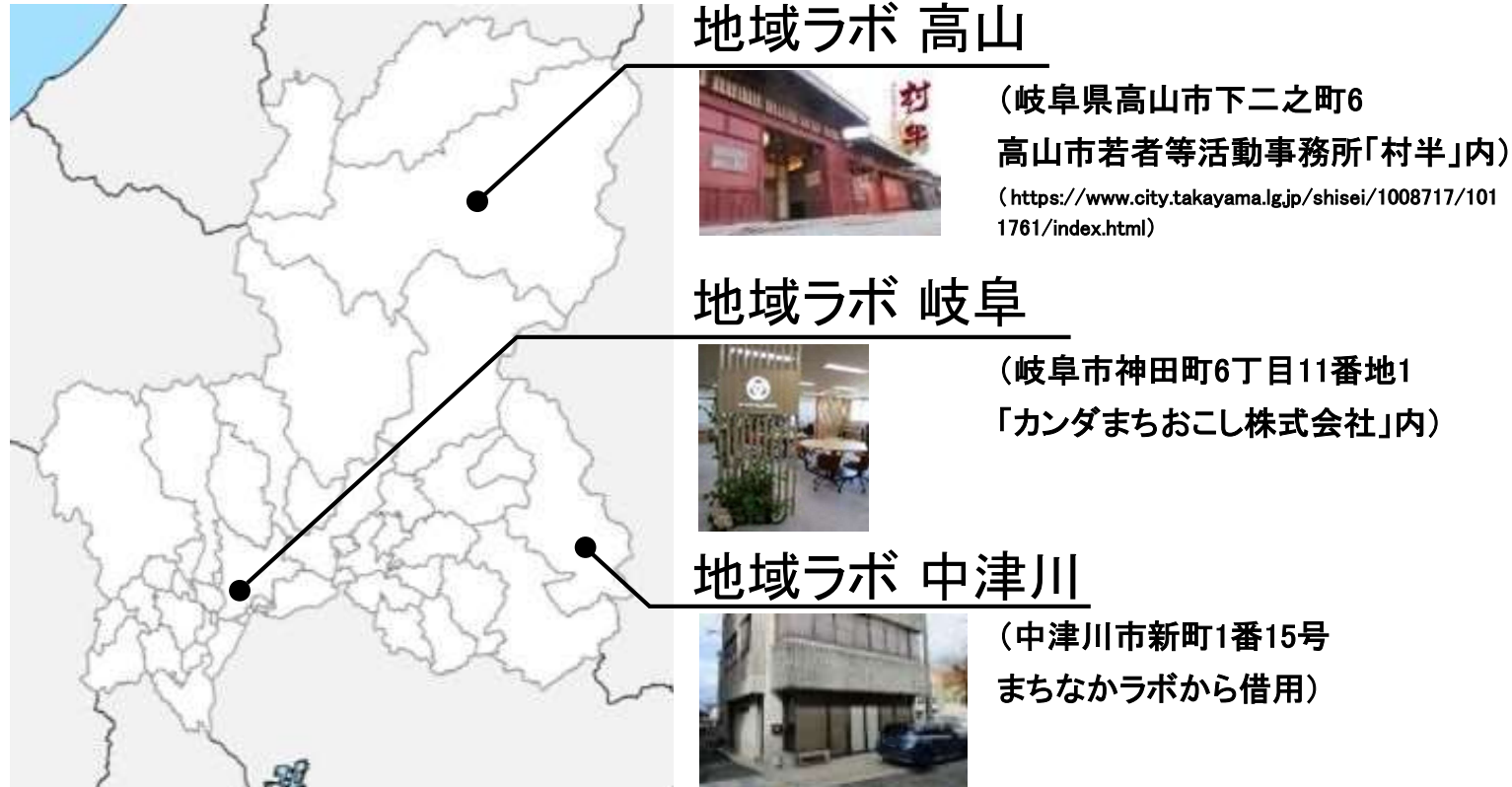


岐阜県が抱える課題例

課題集約

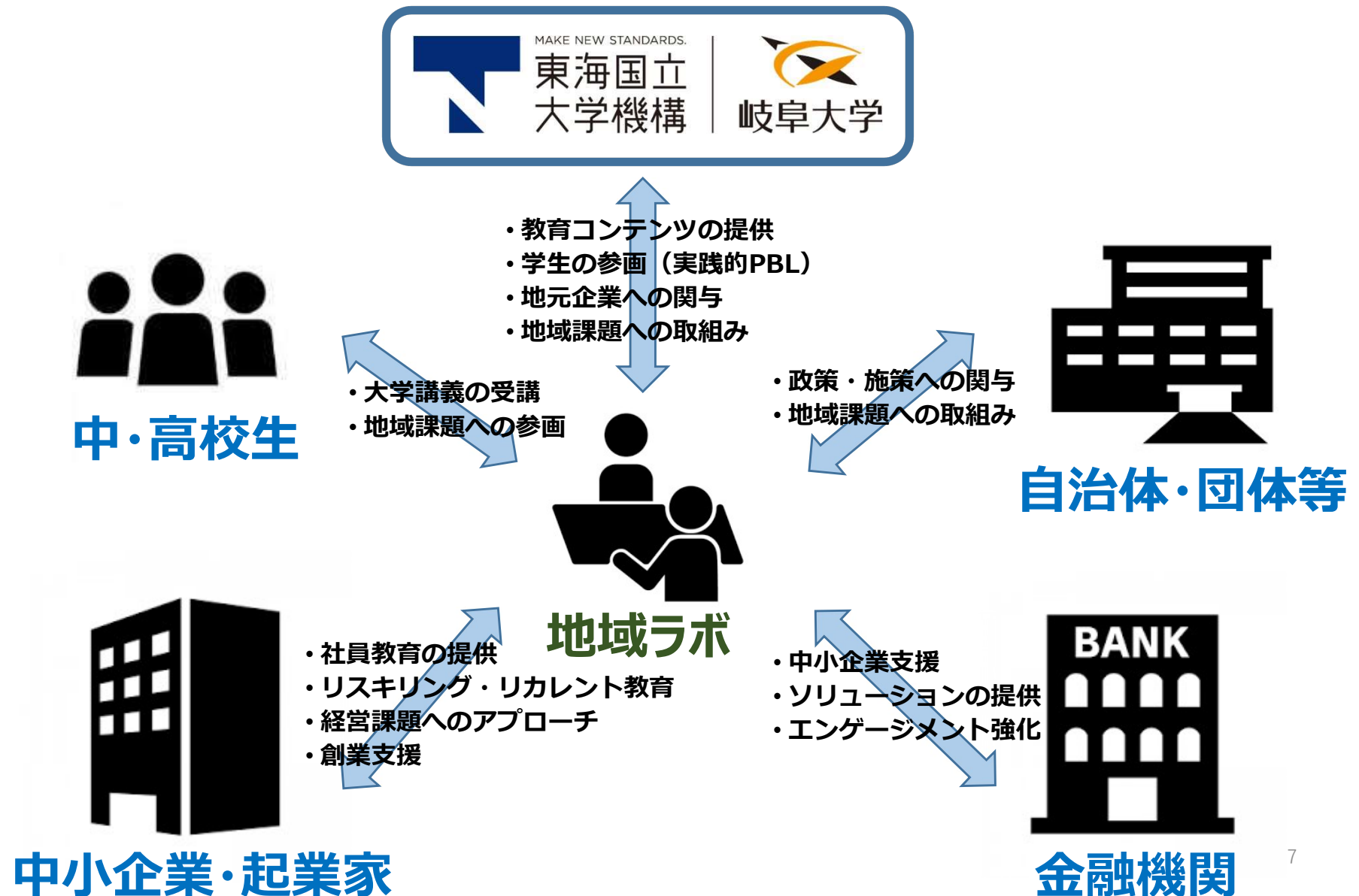
- ◆ 生産年齢人口の減少に伴う担い手不足
- ◆ 新規産業の創出

加盟機関の拡大による東海地域全体の
高等教育の知的基盤の充実と高度化



- 岐阜県の3自治体(岐阜市、高山市、中津川市)に「地域ラボ」を設置
 - 地域課題PBL科目等の実践的学修の場として活用
 - 地域に密着し、地域社会や地元企業などの課題を集約
 - 地域ラボには特任教員及び支援員を配置
 - 実習等の調整・支援
 - 大学と地域との連携
- 地域ラボは本事業参加大学と共同で利用し、本事業の拠点化

「地域ラボ」は、**地域と大学を結ぶハブ**の役割を目指して活動しています





Ⅱ. 地域ラボ・高山 活動紹介

<岐阜県高山市>

- 人口：8.3万人（2024年4月1日時点）
- 面積：2,178km²
- 主要産業：観光、木工、農業 など

<地域ラボ・高山の活動>

- 設置場所：若者等活動事務所「村半」
- 地域ラボ・高山が関わる主な地域課題
 - 4年制の大学がなく、進学・就職を機にした若者の流出等による、少子高齢化や人口減少が非常に深刻
 - 企業の人材確保や産業振興
 - 若者が活躍できる魅力ある地域づくり
- 地域ラボ・高山の活動の方向性
 - 大学の専門的知見を活かした講演会の開催
 - 地域内外の高校生や大学生が活動できる基盤づくり
 - 地域の企業・地方自治体・高校等の多様な主体と協働した地域特有の課題解決



地域ラボ・高山では、**地域の課題をとらえ**社会人や中高生に向けて、講演会やワークショップを開催しており、**地域の方々に向けて学び・交流・活動の場づくり**をしています。

産業×福祉 買い物支援について考える

開催日：2024年2月12日
参加者数：19名



高校生×大学生交流会 @高山西高校 @吉城高校

開催日：2024年5月17日
参加者数：76名



階層別セミナー 若手向け、中堅向け、管理者向け、 全階層向け 計4回

開催日：2024年8月～11月
参加者数：計103名



< 開催実績* >

【2023年度】 企画数：20企画、参加者数 **延べ400人**

【2024年度】 企画数：40企画、参加者数 **延べ800人**（2024年1月時点）

* 共催、協力、講師担当含む

- テーマ：秋の高山祭（八幡祭）課題解決実習
- 期間：2024年1月～5月（現地実習2回（内1回は報告会））
- 対象学生：岐阜大学 社会システム経営学環 2年生（開始時1年生）29名
- 解決する課題：①担い手確保、②資金確保、③観光資源としての活用
④祭を通した郷土愛・地域の誇りの醸成
- 協力者：秋の高山祭（八幡祭）担い手の方々、高山屋台保存会、高山祭屋台会館、
櫻山八幡宮
- 報告会参加者：秋の高山祭（八幡祭）屋台組構成員、
春の高山祭（山王祭）構成員、高山市職員、観光団体関係者など約20名



高山市での現地実習時の様子

高山市現地で、地域の祭関係者や高山市の方々に向けて報告会を開催し、**学生から課題解決を目指した複数の提案**がなされました。

<発表内容>

- 1班 クラウドファンディング、児童による秋の高山祭お手伝い
- 2班 高山祭が100倍楽しくなる 子ども向けハンドブック
- 3班 法人化、屋台総選挙
- 4班 岐阜大学・スポーツ少年団との連携、ファンクラブ設立
- 5班 学びの中で継承する伝統文化、ストーリーで伝える高山祭
- 6班 マツリンク、栞販売、出張高山祭、応援広告



報告会の様子

報告会においては、**学生の視点による斬新な提案を前向きに評価するコメント**がありました。同時に、**地域が守ってきた伝統文化に短期の実習で学生が関わることに**対して抵抗感をもって受け止めたと思われる地域の方々の反応も相応にありました。

<参加者の声>

- **普段の屋台組の人々からの視点とは異なるところからの斬新な提案**がおもしろかった。クラウドファンディング等は早急に保存会・行政等で検討が必要かと思われます。**これを機会に、ぜひ気軽に高山祭に来ていただいて（参加してもらって）**色々な意見を聞かせてほしい。
- おそらく短期間でのインプットだったと思いますが、いずれの班も**とても夢のあるアウトプット・提言**だと感じました。実現可能性についての判断はあるものの、**具体的な施策に向けたヒントが多数**ありました。今回の実習を契機として、皆さんが課題としていた高山ファンに、みなさん自身になっていただいた事、とてもうれしいです。
- ・実習自体の期間が限定的なので、どうしても深掘りできないと思います。**単なる「体験」とすることなく、長期的な関わりに向けたアプローチ**を期待しています。
- **本当にやるならもっと取材が必要**

地域からの報告会への反響と学生による主体的な申し出により、報告会で提案された課題解決策の1つである「高山祭が100倍楽しくなる 子ども向けハンドブック」を有志の取り組みとして実現させた。

- 概要：子ども向けハンドブック制作
- 期間：2024年6月～10月
- 学生メンバー：岐阜大学 社会システム経営学環 2年生5名
- 地域協力者：高山市・高山市教育委員会、高山屋台保存会、高山祭屋台会館、櫻山八幡宮、八幡祭屋台組の方々
- 協賛団体：一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会 他 9団体
- 目的：**秋の高山祭（八幡祭）の新たな魅力の創造、高山市の子どもたちの祭りへの参加意識向上**
- 配布部数：10,000冊
- 配布方法：高山市内 全小学校3年生～中学3年生
祭当日の観光案内所等



地域の多様な主体を巻き込みながら、学生が地域の祭りの担い手の方々と直接コミュニケーションを図り制作を進めることで、地域から歓迎されるプロジェクトとなった。

<活動のポイント>

- 学生が祭りの担い手の方々と直接コミュニケーションとれる機会を設けたことで、学生と地域の祭りの担い手の方々の間に関係性が構築され、**強固な協力関係のものでプロジェクトを進めることができた**
- 学生が地域の方々の想いをくみとり、ハンドブックの構成に反映させることで、地域に前向きに受け入れられる成果物を制作することにつながった
- 祭りに関係する地域の多様な主体を巻き込みながら進めることで、地域の期待感を高める取り組みとなった
- 制作に関わった学生は**祭当日の祭り行列に参加し、地域で守られてきた伝統文化に関わることの醍醐味や、地域と連携して活動することで生まれる絆を感じる機会**となった



高山祭ハンドブック制作プロジェクトを通して、学生の課題解決力を高めるとともに、地域の課題解決につなげることができた。

<成果>

- 地域の伝統文化をテーマにした実習に取り組むことで、**学生が地域と協働する力を身に付けるとともに、その難しさややりがいを体感する取り組み**となった
- 「高山祭」という、**地域で長年守り続けられてきた伝統文化の領域**で、学生の視点を活かして新しい価値を生み出す取り組みを地域に知ってもらうことで、**地域と大学の新たな連携の可能性を模索する契機**となった
- ハンドブックを地域の子どもたちに配布することで、**地域の子どもたちの祭りへの興味・関心を高めるとともに、郷土愛を醸成するきっかけ**となった（アンケート結果より）

<アンケート結果>

○小学校配布分（保護者アンケート）：回答者のうち**86%**が「文化継承に役立つと思う」と、**77%**が「郷土愛を醸成するきっかけになると思う」と回答

○中学校配布分（中学生アンケート）：回答者のうち**85%**が当ハンドブックを読んで「この文化を守りたいと思った」と、**74%**が当ハンドブックを通して「高山のことを以前よりも好きになるきっかけとなった」と回答



高山市長訪問時の様子

Ⅲ. 地域ラボ・中津川 活動紹介



1. 地域ラボ・中津川の紹介

水野 輝彦

岐阜大学社会システム経営学環
地域ラボ・中津川 特任准教授

プロフィール

岐阜県土岐市出身
信用金庫にて10年勤務
現在は中小企業診断士として活動



地域ラボ・中津川の概要



岐阜県中津川市

- ◆人口：73,410人(2025年1月1日時点)
- ◆面積：676.45km²（岐阜県内6位）
- ◆主要産業：製造業、農林業、観光業
 - ※従業者数では製造業が最も多い（約36%）
- ◆名物：五平もち、栗きんとん、飛騨牛等
- ◆その他：リニア中央新幹線の岐阜県駅（仮称）及び車両基地建設中

地域ラボ・中津川



- ◆中心市街地である新町商店街内に設置
- ◆中山道中津川宿沿いにある
- ◆市役所、各施設との連携のよい好立地
- ◆毎月開催される『六斎市』と同時に講演会「日曜LAB」などを開催し学びと交流の場を提供

リニア中央新幹線



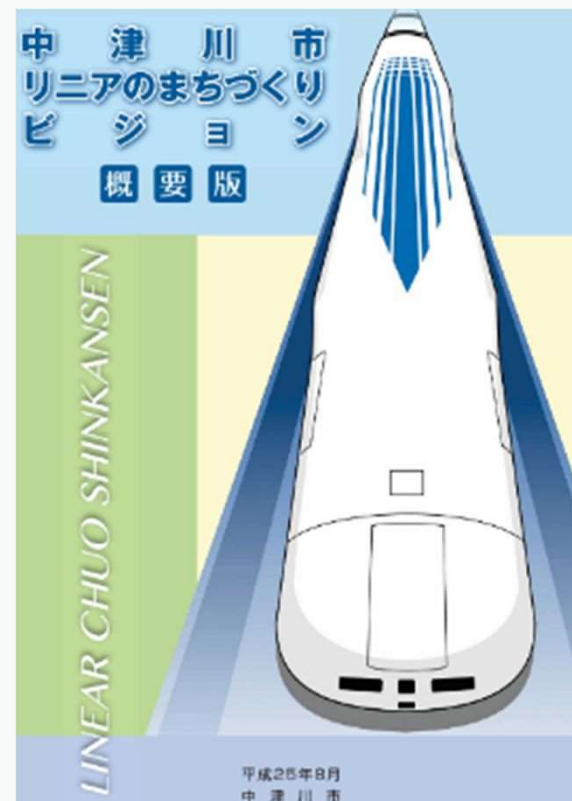
東口米田名用交通広場イメージ



西口送迎用交通広場、パーク＆ライド駐車場イメージ



リニアのまちづくりビジョン（概要より）



中津川市ホームページより抜粋

中津川市は、リニア中央新幹線の駅が設置されることにより首都圏や大阪都市圏と直結し、全国各地と短時間で往来できるようになります。（中略）加えて、車両基地の設置による市の知名度アップ、企業・機関の立地促進や雇用の拡大などへの期待が大きく膨らみます。

人口減少、少子高齢化という厳しい時代を迎えるなか、千載一遇のチャンスであるリニア開業をまちづくりに活かし、持続的に発展する中津川市をつかっていかなくってはなりません。（中略）リニア時代を見据えたまちづくりの考え方や施策の方向を示し、官民一体となった取り組みを進めることを目的に、「中津川市リニアのまちづくりビジョン」を平成25年8月に策定しました。

六斎市



六斎市とは？

江戸時代、交通の要衝として栄えた中津川宿は、東濃地方はもちろんのこと木曽や飛騨、三河地方など各地の産物の集散地でした。

毎月、3と8がつく日には「六斎市」と呼ばれる定期市が立ち、宿場は賑わったといえます。江戸時代の中津川宿の賑わいを現代に呼び戻そうと、平成20年から毎月第一日曜日に「中山道中津川宿六斎市」が140年ぶりに復活し160回を超える開催を誇っています。六斎市が開かれるのは、新町通り本町通り一帯で、開催日には歩行者天国になります。



中津川市役所HP参照



地域ラボ・中津川で実施している「日曜LAB」の様子

地域と大学を結ぶ「ハブ」の役割を目指しています！



中・高校生



自治体・団体等



中小企業・起業家



金融機関



目次



地域ラボ・中津川の活動紹介

① 高校生に向けたキャリア教育

地域の高校の活動「地域探求チーム」との連携

② 高校生と大学生の交流

岐阜大学と恵那市、中津川市の共催イベント
「まちなかオープンカレッジ」

③ 岐阜大学社会システム経営学環生のPBL実習

中山道「馬籠宿」での実習

④ その他

起業家や社会人向け相談事業や研修等

① 高校生に向けたキャリア教育



テーマ：「君たちはどう選ぶか～人生の選択～」
開催日：11月13日中津高校
参加者：19名（生徒16名、先生3名）
講演者：若山寛幸氏（2023年支援員）
内 容：自分の人生の選択について
東京で会社経営をしながら中津川
との2拠点生活をしている方の話。
母校での講演



テーマ：人生すごろく「金の糸」®
開催日：11月27日中津高校
参加者：7名
内 容：キャリア探究学習
自分の強みを一言で表すと！
自分の軸を知る

①高校生に向けたキャリア教育

対象学生 : 中津高校～地域探究チーム～

解決する課題 : 地域の理解や自分らしさや将来ビジョンの探究

テーマ :

- ・地元出身の社会人や経営者等の経験や考えを聞く、知る機会の創出
- ・キャリアビジョン形成のきっかけづくり
- ・他人との交流から自己認識の理解を深める

成果 : 市内進学校や先生との関係性の構築、高大連携につながる学習意欲の向上や進路選択のサポートができた。

課題 : 地域探求チーム以外の生徒の興味や参加を促すこと。

今後 : 近隣校への横展開を目指していく。

② 高校生と大学生の交流

「高校生のための街なかOPEN COLLEGE」



テーマ：中心市街地まちづくりビジョンを考える

開催日：10月20日9:30~16:30

参加者：25名（高校生17名、大学生6名、OB・OG2名）

内 容：午前中は座学、午後からフィールドワーク（まち歩き）

② 高校生と大学生の交流

「街なかOPEN COLLEGE」とは

中津川市・恵那市・岐阜大学地域科学部・社会システム経営学環が共催で開催する「街なかオープンカレッジ」は、恵那市と中津川市で毎年交互に実施。

イベントを通じて、街づくりを考えるきっかけにするとともに、フィールドワークや地域研究のおもしろさ、大学生による大学生活の実態について地域の高校生に伝えることも目的としている。

2024年は、中津川市の中心市街地まちづくりビジョンのコンセプト『つかう中津川』を題材に高校生と一緒に街づくり課題について考えた。

成果：地元高校生や大学生が街づくり課題について共有でき、街なかで活躍する事業者から刺激を受けていた。地元高校生と大学生の交流が深まった。

課題：課題を抱える事業者等へのフィードバックの機会の提供が必要。

今後：商業高校や工業高校も含めた多様な高校の参加を促す。

③ 岐阜大学社会システム経営学環生のPBL実習

課題テーマ：馬籠における持続的可能な実行できることを提案すること

岐阜県中津川市馬籠宿を実習の場所として選択



2024/9/29 第1回 実地調査
(歴史の話、地域の人のお話を聞く、馬籠を実際に歩き、問題や課題発見)

社会システム経営学環1年生 4つの班に分かれて調査



2024/11/15 第2回 実地調査
(具体的な課題解決のために、話を聞きたい人を厳選)

2024/12/20 第3回 発表会 (岐阜大学と馬籠をオンラインで繋ぎ発表)

馬籠宿（まごめじゅく）

特徴

馬籠（まごめ）は、岐阜県中津川市にある宿場町で、かつての中山道の43番目の宿場です。坂道に沿って石畳が敷かれた街並みが続く、美しい歴史的な景観が特徴。

近代を代表する作家の一人である島崎藤村の故郷として知られ、馬籠峠を越えた長野県側の妻籠宿（木曽郡南木曽町）とともに人気があり、多くの観光客が訪れる。インバウンド客が年間4万人以上訪れている。

地域課題

冬の閑散期の観光振興や山岳地としての防災対策、空き家の増加、インバウンド効果への依存、各事業者における後継者問題など。



溪斎英泉「木曽海道六十九次・馬籠」



③ 岐阜大学社会システム経営学環生のPBL実習

A班 「our QR code」

飲食店の言語がさまざまな言語に対応していない
メニューなどをQRコードにする＝木材にする＝廃材利用



B班 店選びの悩みゼロへ

既存の掲示板の改定。現在の掲示板にアイコンを追加する
景観を壊さないようにする
デジタルサイネージの活用

C班 わたし滑りません！

坂が急すぎる！このことを解決する方法としてとわらじを
使った観光



D班 馬籠を推すスタンプラリー

(重ね印をしていくスタンプラリー)
体験が少ないと感じたので楽しんでできることを

④ その他：起業家、社会人向け相談事業や研修等

「Bizラボ」

毎月の『六斎市』開催時の「日曜LAB」実施後に、起業家や起業を目指す方に対して、経営相談を実施。チラシ等販促物の作成支援から経営計画作成のための相談対応などを行っている。地元商工会議所とも相互に連携。

企業（従業員向け）研修

地域を担う若手が地域課題を共有し、その解決に向けた具体的なアイデアを生み出すことができるようになることを目的に、有識者を招き参加型のワークショップを開催。

対象者は、自治体職員や市内中核企業の若手社員、商工団体、金融機関など。地域活性化に向けて、次世代のリーダーを育成し、次年度以降も継続するプロジェクト等を立ち上げる。



～新しい中津川をソウゾウする～
中津川3.0 キックオフセミナー

中津川市のミライを一緒に考え、アイデアを形にしませんか？

日時 **2025年3月3日(月)**
13:00～17:00 会場での懇親会あり

場所 中津川市 ひと・まちテラス
活動室101a・b・c

参加対象者 中津川市で働く方
中津川市に関係する方
中津川市が好きな方

講師：北村 森 氏

持続可能な中津川の未来をともに。
中津川市は、2030年にはテーマ別の開発により都市の玄関口となる中津川西。しかし、他の自治体と異なり人口減少・少子高齢化が深刻な課題を抱えている。この課題を克服し、持続可能な未来を実現するため、中津川市は、2030年までに人口を2万人に増やすことを目指している。また、中津川市の未来を共に考え、アイデアを形にしませんか？

地域ラボ・中津川のこれから

立地の良さを活かし、地域の多様な
連携先と協力していくことで、



ありがとうございました

